

2

五 六
至 急

受信一三四七
譯始一三三三

譯了二三五〇
電〇三五三三

作

概

昭和廿年五月七日

● 共

符

● 海上護衛總部隊・電報處理表示符・交通



機密第〇五二二二二番電

二分ノ二

五月一日以降硫黃島所在B二四ハ電探ノ捕捉ヲ避ケ低高度(五〇〇)

乃至三〇〇米ヲ以テ本土南岸各地ニ來襲小船舶ニ對シ銃爆撃ヲ加

ヘツツアリ航行船舶ハ勿論航空基地及見張所等ニ於テモ之ガ奇襲ニ

對シ警戒ノ要アリ

一 電信課註 本電二分ノ一(送着)

通三五三六 天二日ケ一(九八三〇) 佐二放 長谷川(新井)

緊急

五 六

受信 〇二三五
譯始 〇四〇〇

譯了 〇六四〇 電 〇三〇一二 作 楯

昭和廿年五月六日

局長	〇	〇	〇	〇	〇
A	〇	〇	〇	〇	〇
B	〇	〇	〇	〇	〇
機密第一	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇

遺艦隊P・三南遺艦隊各P
〇三三七番電

六 K B 戰國楯報五日

一七四〇單發力ワ銃 〇七〇〇 一四三〇單發各二 一五三〇單

發三力ワ灣制陸一七一五 B I 二四 一力ワ灣北進戰果被害ヲシ

ニルハ出港 〇七〇〇 T 一六〇〇 小型 T 一 (滿載) 一八三〇 D 一

針路東 〇七一〇 D 二 〇八一三 T 一單發針路北入港艦船 D 一上陸

用舟艇四 一五三〇大型 T 一 (滿載) D 一 旋泊 (一四〇〇) T 犬

型一四中型三小型三病院船 一〇一 D 三 C H 一 且七上陸用舟艇大型

一五普通七〇

三モ口夕イ發進機針路西賊送船一ノ外通信連絡不良ノ爲不明
〇三四四 呂一 (六一二二五) 二一通 小原 (杉本)

昭和四年五月廿四日

緊急

五 六

受信始〇〇五四四〇五 譯了〇七二〇 電自〇〇三二八二〇 航作概本〇

共 符

作

大海參一部・海上護衛總口

九〇一航空隊上海本隊

機密第〇五二二四三番電 三分ノ二ニ三

發 一 E F 參謀長

九〇一航空隊ヲ海上護衛總司令部直率トシ各護衛擔任部隊ノ作戰ニ協カセシムル案ニ對シ當司令部意見左ノ通(結論)

第九〇一航空隊主力ヲ現戰局ニ於ケル對潛作戰ノ第一線タル對馬海峽方面ニ配備同海峽ノ護衛ヲ擔任スル當隊直率トスルヲ絶對必要ナリ 他部隊擔任航路附近配備スベキ一部兵力ハ直前部隊ノ專門指導ヲ承ケ

シムル如ク 通三三七六三 三三七五三 三三七六三

呂一 E ケ十一(五二〇〇 IC) 佐通 末光(松井)

(理由)

一、對潛作戰ハ戰訓ニ示ス如ク同一通信系ノ下艦艇航空機通信系緊密ナル協同ニ依リテノミ迅速且適切ニ實施可能ニシテ協力ヲ絶對必要ナリ

二、「南」號作戰印度支那沿岸ノ戰鬪ノ如ク熾烈ヲ極メ艦艇航空機共特攻的活躍ヲ要スベキ場合ニ於テハ一系亂レザル統一指揮コソ絶對必要ニシテ對馬海峽方面ニ於テモ近ク同様ノ狀況トナルコト必至ト認めラル

三、對潛作戰通信ハ極メテ迅速ヲ要スルヲ以テ専門ノ通信系設置ノ要アル處専門ノ通信力ヲ有セザル海上護衛司令部ニテ九〇一空ヲ直接指揮スルハ適當ナラズ

四、第九〇一航空隊通信料ノ現狀ニテハ協力スベキ數箇ノ護衛擔任部隊トノ専門ノ通信系擔當ハ困難ナリ

作

五六 受信一四二一 譯了一六二〇 電自〇三二九〇 作 概
譯始一五〇〇 至〇三二九四

昭和五年五月廿日

◎ 西海 航空 隊

◎ 東京通信隊・吳鎮

機密第〇五二一四七番電五分ノ一、二、三、四、五

發 第十二航空廠長

宛 海軍大臣 航空本部

空襲概報（五月五日）

一、第一回〇八一六B一、二九 八機編隊高城地區空襲第二回〇八二二B

一、二九 九機編隊本部地區空襲

二、戰果ナシ

三、被彈高城地區（六〇キロ）二五〇キロ（一部燒夷爆彈ヲ含む）約一

通 三五六六・三五六七
三五八五・三五八〇

呂一Bケ二一（B）吳鎮

尾谷川・關根・谷島
今村・今村（小林）

(1)

三〇發（内構内約五〇發）本部地區（爆彈庫關係）六〇発乃至二五〇發
 旺（一部焼夷爆彈ヲ含む）約一五〇發

四 被害

(イ) 人員高城地區戰死工員一重傷工員二本部地區ナシ

(ロ) 建物高城地區ノ運轉場（假設）八分ノ七全壊全焼補機工場全壊全焼

發動機發送工場全壊半焼會計科倉庫全壊三分ノ二燒本部地區廳舎半

壊増築廳舎全壊部品場（解毀中ノモノ）全壊全焼部品工場大破第二

機體擔當工場中破第一機體擔當工場小破（直撃ナシ）汽罐場小破（

直撃ナシ）酸素工場全壊會計科材料庫全壊全焼

(ハ) 飛行機一式陸攻（要大修理機）一機大破紫電（修理中）一大破

(ニ) 發動機燒損約五〇基破損約五〇基

五 作業ニ及ボス影響

(イ) 機體殆ドナシ

(ロ) 發動機修理能力約三割減但シ一箇月乃至一箇月半後能力復舊ノ見込

(2)

六一般關係

- (ハ) 酸素發生裝置直擊ニ依リ使用不能
- (ニ) 材料在庫量ノ約一割程度燒損

(イ) 兩地駐退機共殆ド疎開シアリ特ニ本部地區ハ總務科ノ半數竝ニ素材工場及主材工場關係員少數在勤セル現狀ナルヲ以テ作業部門ニ及ボス影響渺クナシ

(ロ) 材料關係ハ約百箇所ニ分散シアリシモタマタマ兩三日前發動機關係材料入荷シ之ガ分散未濟ナリシハ遺憾ナリ。

昭和二十五年五月七日

作

至 五 六 受信 〇〇三五六 譯了 〇五二五 / 電 〇二九三二 作 概

- 東印部隊戰報着信艦所。?
- 二一通信隊。二二根電信所

機密第〇五二二〇二番電

發 東印空ポソチアナツク航空基地

宛 東印空司令

受報者 二三航戰司令官 第二南遣艦隊長官

東印空ポソチアナツク派遣隊戰艦概報 (五月廿日)

五月一八二五敵甲一七 一機飛行場ニ來擊陸軍九七重爆一機ヲ統率上

セシム其ノ他被害ナシ。

通三三六六 天二日ケ六 (六一二二二、五九) (二一通 望月 (松山))

昭和廿年五月廿四日

五 六 受信〇五〇二 譯了〇七二五 電自〇三二四一 作機
譯始〇六一五 電至〇三二四四

作戰緊急



東通・海軍總隊司令部

吳 鎮

機密第〇五二二四八番電

四分ノ二六三四

宛 大目 總長

戰聞概報 (五月五日)

一、B-I二九約一三〇機室戸崎附近ヨリ侵入岡山縣南西部ヨリ一〇四五
ヨリ一〇二〇間吳ニ侵入第十一航空廠廣工廠吳航空隊ヲ爆撃土佐灣
ヨリ脱去セリ使用爆彈短延期又ハ瞬發五〇〇ポンドヨリ一〇〇〇ポ
ンドニシテ燒夷彈及時限爆彈ヲ含マザルモノノ如シ戰果撃破五(内
一空戰ニ依ル)

通三三六八 三三七三
通三三七八 三三八九

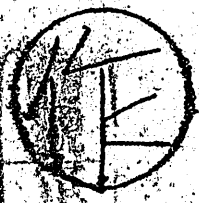
呂一Bケ十一 (B) 吳通 清水 (上野)

被害

- (イ) 第十一航空廠廣廠被害相當大ニシテ建物殆ド大中破電源破壊セリ
 應急修理ノ上墜道工場他一部工場ハ數日後作業開始可能其ノ他詳細調査中一七〇〇迄ニ判明セシ人員戰死第十一航空廠一七重輕傷
 二六廣工廠戰死三九重輕傷三〇
- (ロ) 吳航空廠居住關係大破飛行場被彈使用可能人員戰死七重輕傷一〇
- (ハ) 吳海兵團(第十一航空廠遺員)戰死一一重輕傷一〇
- (ニ) 部外關係被害極メテ輕微ナリ
- 三、B一二九約五〇機〇七〇〇ヨリ〇七五〇ノ間足摺附近ヨリ侵入内一七機ハ第十二航空廠ヲ爆撃セリ(八機高城九機本廠)他ハ太刀洗目達原方面ニ侵入セリ被害高城地區發動機修理能力三割減復舊一一一五月ヲ要ス本廠地區被害輕微作業ニ及ボス影響殆ドナシ人員戰死一名重傷二名。

人

五六 受信一〇四七 譯了一三一五 電〇三二八八 作 概



二三根戰國概報着信處所

機密第〇五二一三五九番電 二分ノ一、二

二十三特根戰國概報 第七七號

一五日〇五五〇 四發爆擊機一南方ヨリ「マカツサル」港外ヲ通

過〇六一一北方ニ去ル

三〇六二五八一三四 二機南方ヨリ侵入「マカツサル」港外旋回

後「マロス」投彈九發〇六五五北東ニ去ル

三一五〇ピヨントラ北東ヨリ侵入「マロス」飛行場旋回投彈約五

〇發一二一五北東ニ去ル

四一六一七八一三四 六機北東ヨリマカツサル半島西岸沿ヒニマカ

ツサアルニ侵入執拗ニ旋回後機橋附近及市街投彈數十發(一部時限

後一八三二何レモ東方ニ去ル。マロス二機マカツサル港外ヲ通過

通三四八二 呂一トラ十八 (一八三六七五五) 二十一通 新倉(川崎)

昭和廿年五月七日



五六 受信一七〇〇九 譯了二一五〇 電〇三四六一 作 概

昭和五年五月七日

四六 警備隊

三〇 根 戰 團 概 報 着 信 艦 所

機 密 第 〇 六 〇 五 四 五 番 電

四六 警 戰 團 概 報 第 一 二 三 號

一 五 日 一 〇 〇 〇 一 一 一 五 S B 二 〇 一 一 二 機 來 襲 第 一 飛 行 場 南 方 二 投

彈 全 島 偵 察 戰 果 ナ シ 獲 害 兵 舎 一 破 壞

三 一 三 〇 〇 一 一 八 一 五 敵 送 船 二 (五 十 噸 音 荷 及 七 千 噸 級 滿 載) ヤ ツ プ 島

南 東 接 航

三 二 〇 一 〇 航 空 燈 ヲ 點 シ タ ル 敵 隊 方 不 明 ノ 大 型 機 一 東 方 ヲ リ 飛 來 旋 回 後

南 東 二 去 ル

三 六 七 二 呂 一 B ヲ 十 四 (一 五 七 一 〇 KC) 三 通 岩 田 (小 林)

人

五六 受信始 一一五〇七

計丁 一二四〇 〇三二八七

作稿本

昭和五年五月廿日

緊急

共



横

通

機密第〇六〇六二〇番電

發 南島島警備隊司令

宛 第七五二航空隊司令

通報 横須賀鎮守府參謀長

一、最近敵ハ一五〇〇頃來襲スルヲ列トス影雲ノ夕方當地着ハイルハ

ク遲キヲ可トス明七日當地日没一七一六

二敵ハ木更津航空隊トノ通信ハ極メテ敏感ナルヲ以テテイルハク直接連絡

ヲ避ケ横須賀通信 經由トヤラレ度

尙 當隊四特附ノ特受ヲテ嚴重ニナシ直了ニ努ムレ

通三五〇二 呂一〇ケ一(一〇)〇〇〇(南) 警 島山(島田)

Handwritten mark at the top right corner.

千六 譯受信一三三〇九 譯了一四三五 雷〇三二二七 作概



緊 急 一機動基地航空部隊戰團概報着信機所 出水航空基地

九五一。豐橋。松島各航空隊

機密第〇六〇八三〇番電

出水部隊戰團概報（五月六日）

陸攻一機（松島空鳴門機）〇四五〇攻襲北飛行場西方ニ墜着可少所

炎上機 昨有在砲被撃ニ依リ片發ニテ墜着機体小破一機（豐橋空

尾塔機）~~機~~ 離還通信連絡其ノ機ノ狀況ヨリ推定攻襲セルコト斷不確

實ナリ。

通三四六 呂一五々十一（七八七五機）一KFGB放 西村（岩崎）

昭和廿年五月廿日

五 六

受信一八七〇五
開始一八三五

譯了一八四五
電〇三二九八

航作
本概〇

昭和廿年五月七日

至 急

九〇一空總派遣隊

龍華空基地



海上護衛總口・佐鎮・第一護衛艦隊口
支那方面艦隊口・舞鎮・吳鎮・橫鎮

機密第〇六〇八四一番電

九〇一空龍華派遣隊（殘留者飛行艇整備員下士官兵一〇名除ク）
本日撤収完了セリ。

通三六六二 天二B（九八三〇RC）佐二放 イソ野（鈴三）



五三 受信一四三六 譯了 一六三〇 電〇三二六〇 作概
譯始一五四〇

符 共

一 機動基地航空部隊 概報着信處所

機密第〇六〇八五八番電 二分ノ一ニ

一 K F G B B 一 二九邀撃戦闘概報第六號 (五月五日)

一 〇七〇〇 B 一 二九約二六機〇九三〇 (大分一七佐伯九) 來

變雷電一〇機邀撃敵ヲ見ズ 戰果ナシ 被害輕微

三 一 一 一 五 B 一 二九約一〇〇機一 二 一 〇 吳方面ニ 侵入雷電五機

機邀撃敵ヲ見ズ

三 一 四 四 七 B 一 二九約三八機一六二〇 鹿兒島及志布志灣口ニ

リ九州南部ニ 侵入 (鹿兒島六指伯一〇 鹿屋一八具ノ他不明)

四 大村基地三四三空戦闘概報

大村基地機密第〇五一 一 五 一 番電通

通三五五八七 呂一 B 七 (七八七五 KC) 一 K F G B

昭和廿年五月七日

指宿鹿屋笠ノ原各飛行場攻撃零戦一〇機上空巡邏内一機ハ二〇三
 空B一二九。一〇機ヲ種子島東方二〇海里追跡二機ヲ墜破地上被害
 炎上零戦二機一式陸攻一機小破無傷各一機一式陸攻二機（鹿
 元島ヲ含まス）。

人

五 六 受信一六四〇四 譯了一六二〇 電〇三二七七 作概〇

作戰緊急

吳 防 戰



吳海上防備部隊 海護總口。吳鎮。三艦隊口。阪警

機密第〇六〇九四一番電

宛 吳海上防備部隊

信電令作第一二號

一機密吳鎮命令第二一七號ニ依リ佐伯防備隊掃海隊ノ編成ハ機密吳海上防備部隊命令作第二號掃海部隊ヲ以テ之ニ充ツ佐伯防備隊司令ハ速ニ右掃海隊ヲ各擔任區域ニ展開セシメ敵飛行機ノ機雷敷設ニ對處シ速ニ掃海ヲ實施スベシ。

通三五一七 天二日ケ十一(B) 吳通 仙波(上野)

昭和廿年五月七日

27 kg

人

五 六 受信二六一〇
開始二〇一五
七 了〇七五〇 電〇三六九一 作 機

14c

二五根戦國嶺報告層送所

機密第〇六〇九五七番電

第二五根據地隊司令官

五月五日第二十七警備隊戰國報告

四月二十九日「マル」附近作戦情況次ノ通

敵ハ「マル」飛行場滑走路ヲ破壊逐次陣地ヲ縮少「オ」
「ブ」マ「レ」

岬（北緯〇度二三分東經一三二度一五分附近）ニ集結撤退ヲ準備シ

アルモノノ如シ四月二十八日二〇〇〇噸級輸送船一隻入港濱込作

業ヲ實施セリ

陸軍北岸作業部隊ハ四月十七日十八日二十八日（オ）
ストリヤ

三六二五 呂一ブラ一八（一八三六七）五〇（二一）

藤井（田）

昭和四年五月八日

兵ト交戦（ウエウエ）川（南緯〇度二六分東經一三二度九分）
右岸ハ既ニ我ガ手中ニ在リ

指揮官所定兵力配備ムガ一三〇〇一マル側ハ西方ヨリ海上
送ニ依ルムガ以原兵力ヲ約一二〇〇ニ増強ノ豫定

二七警備隊ハ前項海上輸送ニ協力中

(2)

五 六

受信一八四三
譯始二〇二〇
譯了二一四〇
電自〇三三四六
七五
航作
概本〇

緊急

作

東

通

聯合艦隊口・一・五各航空艦隊口・一一根

機密第〇六一〇二五番電三分ノ一・二・三

宛 東京中央

通報 威線參謀長

大海機第第〇四二〇二四番電返

一 戰艦機隊ニ依リテ轉進兵力

(4)五月十日頃迄ニ飛行隊(五三〇九五六二二九九〇二二九特一〇一)

主力(零戦月光三〇藏六〇)轉進

通
三五五八三
三三六二八
三七〇八

呂一三ヲ十八(一七五九〇)十通

片主
岩嶺山

(小)

(一)

昭和廿年五月七日

(四) 五月下旬修理完成ノモ、^及途中故障生起ノモ、等ヲ統合（零戰約八機月光一機ノ豫想）薄進

(五) 空廠搭乗員ノ外戰闘機操縦者約一二〇名ヲ輸送機九機輸送

三五月下旬ニ於ケル殘存兵力豫想（空廠修理機材ヲ含ム）

(1) 戰闘機關係

(一) 可動機材零戰二乃至三機雷電二機練戰一〇機

(二) 修理機材（三ヶ月以内ニ完成見込ノモ）零戰約十機雷電三機

九六式戰闘機三機練戰二機

(三) 搭乗員D級以上一五名D級一一名練習生二五名

(2) 攻撃機關係

(一) 可動機材九六陸攻（輸ヲ含ム）五機陸攻二機陸爆二機

(二) 修理機材（三ヶ月以内ニ完成見込ノモ）九六陸上攻撃機三機

一式陸上攻撃機二機陸上攻撃機三機

(三) 搭乗員陸上攻撃機操二五名偵一七名電九名陸上攻撃機（特）操

一二名偵五名

昭和五年五月廿日

右ノ外第一航空師隊ノ要望ニ依リ臺灣輸送豫定ノ操縦員（傳勤發令濟ノモノヲ含ム）陸上攻撃機二〇名艦上攻撃機三〇名

(六) 中練關係

(一) 機材約五〇機

(二) 操縦員教官教員六三名練習生約二四〇名（内五〇名卒業後補習健育中）

(三) 輸送機關係

(1) 機材九六式陸上輸送機一機一式陸攻一機零式輸送機六機
(2) 搭乗員二十一組（但シ内一一組ハ訓練中ニシテ五月末ニハ晝間行動可能ノ豫定）

緊急

五 六
受信始一九一〇五

譯了 一九一七 電〇三三一八

航作 機本

昭和廿年五月七日



南支那海所在船區 (船舶)

機密第〇六一一〇五番電

海ダン海峡ニ於テB-I二區 一機ト交戦ス被害ナシ

通三七四二 於十六(七五〇五機) 上海

星 野 (吉 田)



至 急

受信一五四〇〇七

譯了一六〇〇 電〇三二三一

航作 概本

昭和廿年五月廿四日

鹿屋 航空基地

第一機動基地航空部隊天作命着信機所

第六航軍派遣海軍通信隊

機密第〇六一一二七番電

發 關東空部隊指揮官

當隊零夜戰二乃至四機當分ノ間左記地點ニ於テ〇四三〇ヨリ〇六三〇ノ間待敵待伏一法ヲ實施スルニ付双發以上ノ飛行機ハ航空燈ヲ點ジ通過サレ度

坊ノ際佐多岬土伊岬何レモ味方電波探信儀ハ高度三〇〇〇米及五〇〇〇米ノ重層配備。

通三五七七 呂一B (七八七五KC) 一K 及 B 放 日高 (吉田)

五 六 受信一四四五 傳丁一六〇〇 電〇三二三八 作 鑑

昭和廿年五月七日



● 父機銃隊報告信鑑所

● 父馬通信隊

機密等〇六一三〇二番電

父馬機銃隊隊員報告 (五月五日)

一、二四一〇一、二九 一來襲大塚崎一帶ニ時限爆彈ヲ交ヘ數十發投擲

ニ脱果ナレ

三、被害戦死一名輕傷三名。

海三五八八 呂一〇ラ十八 (一〇二〇〇) (父通 近藤 (庭 田))

三六 話受一九二〇

電〇三三一七

昭和四年五月七日
航空・陸政



陸政本部・航空本部・吳
軍務局・軍令部第一、二部
一一空廠長 廣工廠長

機密電話〇六一三〇七番電

十一空廠及廣廠空襲誌報

五月三日一〇三九頃依リ約四〇分間十回ニ直リロ二九約一二〇機ノ
爆撃（被爆坑〇〇坑以上及二五〇坑等約二〇〇個以上）ヲ受大要左ノ
被害アリタルモ機員一同頗ル元氣旺盛吳廠下各處ノ應援ヲ受ケ復舊
作業ニ勤メツツアリ隧道工場及其ノ他一部工場八日ヨリ作業開始ハ見
込

一施設一般

廣廠三區（野田方面）ヲ除キ空廠及廣廠第一第二地區ハ被爆及火
害甚シク三區ノ露地ニ小宮（森田）

殆ど焼失鐵骨建物

災ノ爲木造建物大部分「トタン」板剝離シ内部木造物焼失概ネ大中破
通信装置動力装置（電力空氣）水道及瓦斯新装置大中破ネ隧道工場ハ電
力不通ノ外異常ヲシ其ノ他目下復舊可能狀況詳細調査中ナルモ差當リ
地上施設勢力半減ノ見込

死傷者（六日一二〇〇迄ニ判明セルモノ）（一）士官（二）派遣兵員

（三）工具學徒（四）不明

空廠戦死（一）七（二）二三（三）二重輕傷（一）三（二）一九（三）六〇 廣廠戦

死（一）三（二）五四 重傷（一）五七。

（一）

人

五六
受信二二〇〇
開始二二四五
丁二三一〇
電〇三四一〇
海

昭和五年五月七日

海上護衛總地方在勤武官。本邦沿岸所在船團(船舶)

吳、佐、各鎮。領警。一〇三、一〇二各戰隊、青根、上根、
船船檢送司令部



機密第〇六一四〇四番電

關門水路警報第一號

關門西口第一掃海水道、航行禁止ヲ解ク但シ磁氣機雷ニ對シ依然警戒
ヲ要ス尙第二掃海水道ハ航行禁止中。

三三七八七

佐日(四九一五五)佐二放

金子(庭田)

人

五六 受信一五三六
開始一五三七

開了一七一五 電〇三二五四

航作 本概〇

昭和廿年五月七日

作戰緊急



聯合艦隊 口

第一航空艦隊 口 一機動基地航空部隊

機密第〇六一四〇八番電

U N D 戰國概報 (第一三號) (六日)

彩雲一機 (指揮官三木大尉) 偵察ノ爲〇五五〇發天候不良ナリ

シト發動機不具合ノ爲〇九一五 P U ノ一三五度一六五週ニテ引返

シ一三〇〇歸着發動機修理ノ上八日 P U 偵察實施ノ豫定。

通三六〇二 呂一Bケ一 (八九九五 KC) 四通放 長井 (様 海)

昭和廿年五月七日

五 六 受信一六五三 譯始一八〇〇 了了一八四八 電自〇三〇九八 作概〇 運本〇

保安緊急

共 符

先遣部隊



伊一五八(阪通)。吳鎮。光突隊。光突隊大津島分遣隊。一一潛戰。第二特攻隊

機密第〇六一四二一番電 三分ノ二二三

第六艦隊參謀長

五月四日・五日敵機、機雷敷設ニ依ル内海航行禁止區域左ノ通

一、下關海峽西口(第七艦隊旗艦)

二、周防灘本山鼻、一六七度乃至二六五度間常用航路徳山灣南方笠戸島

ノ南方海面(吳鎮)但シ姫島北方海面ニテハ四日夜敵機旋回ノ爆音

ヲ聽取伊號第三六六潜水艦ハ六日〇九四五光沖大水無瀬島ノ一六三

呂一〇七一 (五二九五KG) 六P口放

通三三六四二
通三三六四一
通三三六四〇

關根、丸山、長尾(三石)

1885

度一。六港ニテ觸雷セルヲ以テ同方面極雷敷設サレアルヲト確實ナリ

三 廣島灣全城及安藝灘安居島北西方海面（吳鎮）

四 玉島南方及備讃瀬戸粟島北西方海面並ニ南西方海面（吳鎮）

五 明石瀬戸及友ヶ島水道東方海面神戸大阪間航路（神戸武官府）從テ大阪入港船ハ和泉灘第一水道ヲ通過スルヲ要ス。

大正九年五月五日

9

至急

五

七六 受信二〇三三五
譯始〇〇五五

譯了〇一三七

電〇三四一八

航艦作艦
本政〇

伊勢灣部隊

東通・對潛學校・横通

横

横



機密第〇六一五〇七番電

昭和廿年五月七日

宛 艦政本部第二部長 横須賀工廠 機雷實驗部

五日夜半當方面ニ來襲セル敵B1二九、一機ハ渥美半島伊良湖埼

ノ東方約五〇〇〇米ノ田圃中ニ落下傘附機雷二〇ヲ投下セリ埋没

一米目下掘出中調査員派遣方至急取計ハレ度。

通三八六二 呂一Bケ一() B (横通 半澤(小澤綾)

五六 受信一八三五〇八 譯始二〇八三〇八 譯了二二五〇 電〇三三五一 作 概

● 三 〇 特 根



● 三〇 特根 戰團 概報 差信 陸所 先遣部隊
● 第五 航空 艦隊 除
● ヤツブ 航空 基地 四六 警備 隊

機密第〇六一五二〇番

PP 附近敵艦船狀況遠報 (五月六日)

一〇〇〇ヨリ一〇四〇迄大甲一六中甲一小甲三六甲三中甲一計二四隻

コスソル水道出港南東進視界不良ノ爲爾後ノ行動確認シ得ヌ

二一五五甲一 (七千噸級滿載) 一三三五甲一 (八千噸級滿載) コスソル水道入港

三一二五〇小艦艇六ココスソル水道出港一三五〇アルヨルン燈臺ノ六〇

廣水平線外ニ没ス

四一四〇〇コスソル水道在泊敵艦船大甲五中甲二大甲一中甲二小艦艇四

通三七一二 呂一Bヲ十四 (一五七一〇K) 三道 中野

昭和五年五月廿四日

五

五 七六 緊 〇八三〇
丁〇九三五 〇三六八
本
一〇三戰隊下
水川丸

作

海上 〇六二 〇三六八
〇六一 〇六一 〇六一
番 〇二二
〇二二

海軍 〇三六八
〇二二 〇二二
〇二二 〇二二
〇二二 〇二二

暗號軍極秘

海防局長
〇三六八
〇二二 〇二二
〇二二 〇二二

三類解ノ損物ニ對シテハ調査ノ上ニテ被中ス。
出カトカテ類ス。
下ノ海防局長ノ任地ニ對シテハ調査ノ上ニテ被中ス。

一註 本電二分ノ一既配布

三三九九九 天二二 〇二二
海軍
海軍

五
八六 受信二二三二〇
譚始二三三五〇
譯了 八、一六三〇
電〇四二六六 作 概

緊急

一〇三戰隊

海上 衛總口・第一護衛艦隊F・門司在勤武官・大連在勤武官

機密第〇六一六〇番電二分ノ二

發 隱岐海防艦長

トスルヲ西方ニ擊退セリ

三 爆撃至近弾ニ依リ同船汽機損傷ニ陥リ浸水シ沈没ノ虞アリタル
ヲ以テ一三二〇本艦之ヲ毛航竹島北方九〇〇米ノ所ニ投錨セシ
メタリ

三 同船ノ損傷ニ關シテハ調査ノ上ニテ後報ス

一 註 本電二分ノ一既配布

通三八三五 天二Bケ八(五二)(Kc) 佐通 伊藤、片岡(鈴三)

昭和七年五月九日